



未来の子どもたちのために 私たちが今、すべきこと

エスディーゼーズ ～SDGsを考えよう～

最近、新聞やテレビでSDGsという言葉をよく目にしませんか？ SDGsとは、2015年9月に国連が決めた世界を変えるための目標です。「貧困をなくそう」、「ジェンダー平等を実現しよう」、「気候変動に具体的な対策を」など17のゴール（目標）があり、さらにその下に169のターゲット（具体的な目標）がまとめられています。2030年までの達成を目指し、「誰一人取り残さない」ことが宣言されています。今月号の広報ではSDGsについて考え、また町内で行われている取り組みについて紹介します。問合せ 役場企画財政課企画係 ☎295-2112㊟321

SDGsってなに？ 「持続可能な開発目標」です



今のままでは、私たちの生きる世界を「持続」していくことはできません。現状の「**持続不可能な社会**」から「**持続可能な社会**」へ移行するには、私たち一人ひとりがSDGsへの取り組みに参加しなくてはなりません。**持続可能な社会を目指すための私たち全員の目標、それがSDGsです。**

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年までに達成を目指す17の目標



1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなに。そしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任、つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさを守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナリーシップで目標を達成しよう



🌈 私たち一人ひとりができること

SDGsの達成に向けて私たち一人ひとりができることもたくさんあります。国連が誰でも簡単に実践できるSDGsの目標達成に向けた取り組みを「持続可能な社会のために ナマケモノでもできるアクション・ガイド」として公開しています。公開されている取り組みの一部を紹介します。

レベル1

ソファに寝たままできること

- ・電気を節約しよう。
- ・請求書が来たら、銀行窓口ではなくてオンラインかモバイルで支払おう。
- ・女性の権利や気候変動についてSNSでおもしろい投稿を見つけたらシェアしよう。
- ・声を上げよう！ あなたが住んでいる町や国に、人と地球にやさしい取り組みに参加するよう呼びかけよう。

レベル2

家にいてもできること

- ・短時間のシャワーを利用しよう。
- ・肉や魚を控えめに。肉の生産には植物よりも多くの資源が使われているよ。
- ・生鮮品や残り物、食べきれないときは早めに冷凍しよう。
- ・紙やプラスチック、ガラス、アルミをリサイクルすれば、埋め立て地を増やす必要がなくなる。
- ・エアコンの温度を、冬は低め、夏は高めに設定しよう。

レベル3

家の外でできること

- ・買い物は地元で！ 地域の企業を支援すれば、雇用が守られるし、長距離トラックの運転も必要なくなる。
- ・「訳あり品」を買おう！ 大きさや形、色が規格に「合わない」という理由だけで、捨てられてしまうような野菜や果物がたくさんあるよ。
- ・買い物にはマイバッグを持参しよう。レジ袋は断って、いつもマイバッグを持ち歩くようにしよう。

🌈 毛呂山町のSDGsの取り組み (一部を紹介します)



住み続けられるまちづくりを

- ・道路・水路の美化サポート事業…美化サポート団体による美化活動を推進します。
- ・町内循環バス運行事業…高齢者等の日常生活支援等のため町内を循環するバスを運行します。
- ・定住促進事業…空き家リフォーム等に対して補助を行います。
- ・地域見守りネットワークの結成…地域住民、ボランティア、関係機関との協働により住み慣れた地域での安心した生活の確保を図ります。



つくる責任 つかう責任

- ・ごみ等の分別啓発勉強会…ごみの分別、減量化等について区長など向けに勉強会を行います。
- ・不法投棄防止パトロール…不法投棄の防止を図るため、パトロールと不法投棄物の回収業務を行います。
- ・環境測定…公害の未然防止を図るため町内河川の水質、事業所排水などについて調査します。
- ・ごみの資源化・減量化事業…ごみの減量化、資源化を推進するために、生ごみ処理機への補助金や集団資源回収に対する補助金を交付します。

もろやま×SDGsロゴ

SDGsの推進を目的として、毛呂山町オリジナルのロゴマークを作成しました。このロゴマークは、町が行う事業等で使用するほか、町内でSDGsに関する取り組みを行っている皆さんに広く使っていただくことを想定しています。ぜひ、SDGsの達成に向けてロゴマークをご活用ください。詳しくは町ホームページをご覧ください。



未来の毛呂山の子どもたちに 美しい里山を残していくために

～フォレストーズプラスの取り組み～



毛呂山の美しい里山を 未来につなげる活動

埼玉県の森林面積は約12万ヘクタール（平成28年度末）で県土面積の32パーセントを占めています。しかしながら、近年、外国からの安い木材の輸入などにより木材価格が低迷し、伐採されることなく放置され、荒廃している山林が増えている現状です。

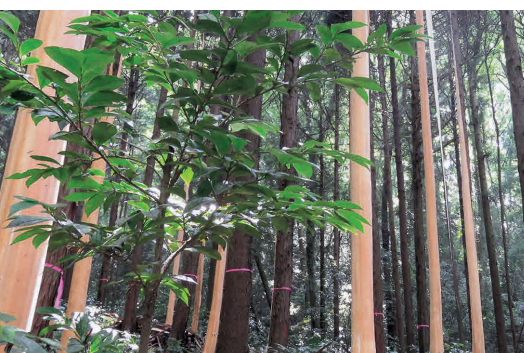
手入れがされなくなり、密になった森林は、木々がしつかりとした根を張れなくなり、また土壌の保水機能が下がることから、近年、集中豪雨による山林の土砂崩れの原因の一つになっています。

町内の「フォレストーズプラス」は、「きらめ樹（皮むき間伐の愛称）」という方法で町内や近隣市町の森林の間伐を行い、その間伐した材木を活用して、製材・加工・販売をしています。SDGsの目標でもある「気候変動に具体的な対策を」および「陸の豊かさを守ろう」に取り組むフォレストーズプラスの代表である嶋田昭成さんに話を伺いました。

フォレストーズプラスの活動のきっかけは、前代表である松岡茂樹さんが2016年に熊本地震の災害ボランティアに参加し、そこで土砂災害を目の当たりにしたことだという。

松岡さんは、もともと埼玉医大で看護師として働いていたが、熊本地震での大規模土砂災害の原因の一つが山林の荒廃ではないかと考え、すぐに静岡で皮むき間伐を行っている団体で研修を受け、フォレストーズプラスを立ち上げた。

フォレストーズプラスが行う皮むき間伐は、木を伐採しない状態で樹皮をむき、そのままゆつくりと1年半から2年をかけて乾燥させ、枯れた木を伐採するというもの。



樹皮をむかれることで、水分を吸い上げることができなくなり、木はゆつくりと乾燥し枯れていく。



フォレストーズプラス
代表 鳥田昭成さん

皮むきにあたっては、区域を区切って間伐する木の本数を割り出し、細い木を中心に間引く。そうすることで残った木に光がよく当たり、栄養が行き渡ることで太くなり、根もしっかりと張っていく。

「私たちの伐採は大きな機材を使わないで、人の手で間引いていくという間伐。木を運ぶにも機械を使わないで、運搬のための林道も作らずに森に優しく作業をする」と鳥田さんは語る。

また、通常の間伐では、切り倒した樹木を活用せず、そのまま倒して放置しておくことも多いが、フォレストーズプラスでは、間伐材を無駄にすることなく加工して製品として生まれかわらせる。間伐

作業は、山主さんやまぬしに活動の趣旨を理解していただいて無償で行う代わりに間伐材をいただいで、その間伐材からできた製品を販売し、団体の活動資金に充てている。

「今の人たちは地球にある資源を消費して、それが自分の身を削っていることに気づいていないような気がする。このまま私たちの世代で資源を消費していったら、未来の子どもたちに何を残すんだろうって思う。みんなに考えてほしい」と鳥田さんは語る。

フォレストーズプラスでは、森林の大切さを次の世代に伝えるために、小さな子どもから年配の人まで参加できる間伐の体験イベントを開催したり、講演や授業を行って

いる。

イベントをやるにあたっては、子どもたちにこそ山や森の重要な価値、楽しさを体験してもらいたいとのこと。5月9日には筑波大付属坂戸高校の生徒たちを対象に皮むき間伐のイベントが行われた。

皮むきは大変な作業のように思われるが、それほど力もいらず、小さな子どもでもできるという。皮むきの手順は、まず、木に鎌で縦に切れ目を入れ、その切れ目から樹皮と木の芯の間に竹のへらを入れて樹皮を下まではがす。木の周りを一周はがしたら、はがれた樹皮の端をみんなで輪になって持ち、下から上に引っ張りながらはがしていくのだ。

「環境教育って面もあるけれど、とにかく山や森は楽しいところなんだって子どもたちに知ってもらいたい。私自身子どもが大好きだから山で遊ぶのが大好きだったから」と鳥田さん。

子どもたちが樹皮をはがした木が、数年後にベンチや小物などの加工品になったとき、それを見て子どもたちが「これ、私が皮をむいた木か

らできてるんだ」と思い出るとともに森とのつながりを感じることが真の環境教育となる。

「実際に体験することで、山や森の重要性や楽しさを感じ、普通は捨てられてしまっ間伐材も無駄なく使うことで、資源の大切さを感じてほしい。自然は失ったら簡単には元に戻らないから」と鳥田さんは語る。

これからも、毛呂山の豊かな里山を守っていくため、フォレストーズプラスでは積極的に活動を行っていくという。

町内の間伐材を使った製品 間伐材のポコポコ丸いところを使ったベンチ



フォレストーズプラスの作製するベンチは、製材したときに出る木の外側の丸い部分を使用しています。通常は、加工品としては使われず薪などになることが多いのですが、木肌が楽しめ温もりのあるデザインとなっています。背もたれが低く作られているため、リュックサックを背負ったままで座ることができます。なお、様々な方からの寄附により、もろバス（町内循環バス）の停留所にも6台（R3.5.1時点）設置されています。



※活動に興味がある人は、フォレストーズプラス info@forestersplus.com までお問い合わせください。